

ZENRAKUREN

MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報

全酪連 将来ビジョン

全国酪農青年女性会議
大井委員長に聞く！

購買部だより

全酪連販売預託事業利用拡大支援策の
実施について

嫁・婿が語る酪農の魅力／^{ながつね ひさか}長恒 久花さん
酪政連活動報告
人事異動



酪農トピックス／

9月1日 福島県酪農協・小野町地区酪農協県が合併認可書を交付(仙台)ほか

福島の酪農は負けない!!平成24年10月20日に
第30回福島県ホルスタイン共進会開催

日本酪農見て歩紀(北海道富良野市 藤井牧場)



10

2012 October No.565



全国酪農業協同組合連合会

全酪連

将来ビジョン

全酪連は、全ての酪農家の皆さんが希望を持って元気で安心して経営ができ、酪農に従事して良かったと思える豊かで魅力ある酪農の創出を目指して、10年後の全酪連のあるべき姿を設定し、その実現のための取り組みを『将来ビジョン』として策定しました。

酪農業界を取り巻く環境

全酪連では、平成21年度に平成23年度を最終年度とした「第八次中期事業計画」を策定し、酪農家の経営及び酪農生産基盤の安定化に寄与することを基本方針として、会員と一体となり酪農生産現場を中心とした事業展開を行ってきました。

しかしながら、この3年間で酪農家戸数は約▲3,400戸、生乳生産量は約▲41万t、経産牛頭数は約▲6.5万頭と大幅に減少し、酪農生産基盤の弱体化が急速に進みました。

今後も依然として経営主の高齢化や後継者不足による酪農家戸数の減少、搾乳牛頭数の減少による生乳生産量の減少、加えて飼料価格の高騰や不安定な副産物価格、またT P P交渉への参加問題による将来への不安等により生産基盤の弱体化が更に進むことが予想され、日本の酪農が危機的状況に陥ることが懸念されています。

全国連として果たすべき役割

このような状況の中、酪農専門農協の全国連として全酪連の果たすべき役割は、酪農生産基

盤の維持・拡大のための事業をより強力に推進していくことだと強く認識しております。

具体的には、①会員農協・酪農家が地域社会に根ざした安定した酪農経営が継続でき、②酪農後継者や新規就農者が従事しやすく将来に希望を持てる環境を作り、③消費者が求める安全・安心で良質な国産生乳を安定して生産し供給すること、この3点の実現を目指していくこととあります。

10年後に目指す姿

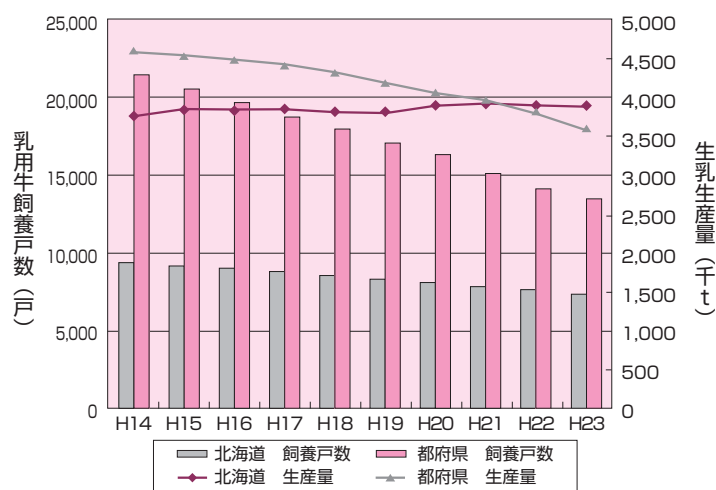
この3点の着実な実現に向けて、全酪連として長期的視野に立つて優先的・重点的に取り組むべき施策を明らかにするため、「全酪連の将来ビジョン」を策定することとしました。本ビジョンは平成24年度を初年度とし平成33年度を最終年度とした全酪連の10年後に目指す姿とその実現のための取り組みを示しておりますが、その推進に当たっ

ては、3年を期間とする中期事業計画並びに単年度計画において、より具体的な取り組みや数値目標を定め実施していきます。

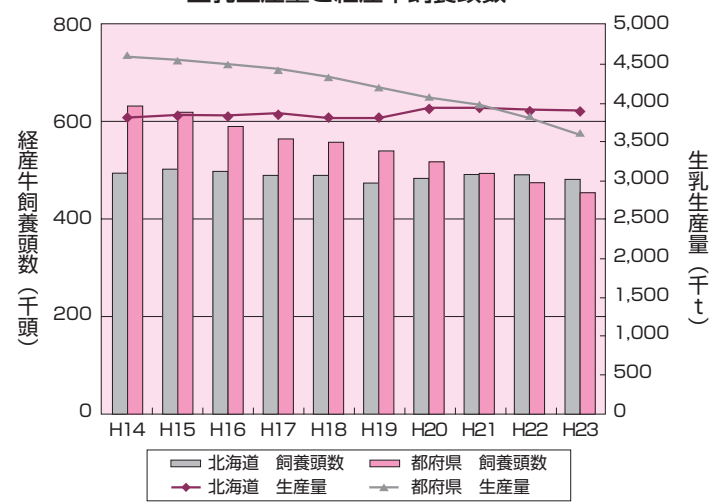
全酪連は、全ての酪農家の皆さんが希望を持って元気で安心して経営ができ、酪農に従事して良かったと思える豊かで魅力ある酪農の創出を目指して組織活動をしていきます。

詳しくは、全酪連ホームページ <http://www.zenrakuren.or.jp/> をご覧ください。

生乳生産量と乳用牛飼養戸数



生乳生産量と経産牛飼養頭数



I. 将来ビジョン策定について

10年後の全酪連のあるべき姿を設定し、会員・全酪連全職員が共通認識の下、将来ビジョンが示す方向に向けて事業推進に取り組むものとする。

II. 全酪連の将来ビジョン

全酪連は会員と共に酪農生産基盤の維持・拡大に最大限努め、魅力ある元気で豊かな酪農の創出を目指します。

全酪連の基本姿勢

- 酪農生産者が地域社会に根ざし、安定した酪農経営。
- 酪農後継者や新規就農者が希望を持てる酪農環境。
- 消費者に安全・安心な国産牛乳・乳製品を届けるための、良質な生乳生産と安定供給。



III. 基本方針

1. 生産環境整備

安定した酪農経営の継続と担い手確保に資する事業を展開するとともに、会員農協の機能強化の支援を行う。

2. 生産性の向上

酪農家への経営支援、技術支援を充実させるとともに、安全・安心な酪農生産資材の安定的な供給体制を維持する。

3. 生産物の有利販売

酪農家の収益向上のために酪農系統組織として力を結集して、酪農生産現場から発生する生産物の有利販売に努める。

IV. 具体的取組み

1. 生産環境整備

- (1) 後継者・新規就農者対策強化
- (2) 搾乳後継牛の確保
- (3) 会員組織強化
- (4) DMS (酪農家経営管理支援) システム活用による経営支援と情報発信

2. 生産性の向上

- (5) 技術指導による生乳生産効率の改善
- (6) 高品質な生産資材の安定供給

3. 生産物の有利販売

- (7) 生乳需給調整機能と再委託事業の強化
- (8) 乳製品の取扱い強化
- (9) 生体牛の取扱い強化

4. 組織体制整備

子会社等も含めた全酪連グループ組織全体の効率化・合理化を進め、自己資本の充実とともに財務体質を強化し積極的な事業展開を行う。

- ・人的資源: (10) 効率的事業遂行のための人員・組織体制の再構築
- ・財務基盤: (11) 自己資本の充実と財務基盤の強化



■プロフィール

氏名：大井 幸男（48歳）

役職：全国酪農青年女性会議

委員長（2期目：3年目）

中部酪農青年女性会議

委員長（3期目：5年目）

岐阜県羽島市で経産牛60頭、哺育・育成牛50頭の計110頭を飼養。

まずは、就農の経緯を 教えてください

地元の普通高校を卒業してベンチャー企業に就職しましたが、約6年後に「寿退職」して実家を継ぎました。一度就職したからか、平成元年に就農して初めて思ったことは「休みがないのはおかしい！」ということでした。家族と話し合い、毎週日曜は休めるようにと、就農2年目には従業員を雇い仕事の分担を行いました。現在は父、母、私、従業員の4名で作業を行っています。

酪青女に関わるきっかけは？

平成12年に岐阜県酪農青年の委員にな

農協を超えて、 地域を超えて、 1つになっていく団体に

7月の全国大会で再任された全国酪農青年女性会議の大井 幸男委員長に、酪青女に対する想いを語っていただきました。

中部会議の特徴を 教えてください

り、同じ年に第30回全国大会の経営発表で発表したのがきっかけです。そのときは「絶対に自分が最優秀だ！」と思って発表に臨みました。しかし、他の方の発表を聞いて、自分が井の中の蛙だということを感じられました（笑）。その後は全国のいろんな経営を見ることができ、我が家に改善できることもありました。その後、中部会議、全国会議と役員をやらせてもらうことになりました。

他の会議との違いで言うと、酪農家のお子さん（小中学生）を対象に「子弟交流会」を開催していることでしょうか。



約20年前から開催していて、夏休みに3日間キャンプに行き交流を図っています。しかし、最近は参加人数が減ってきていて、今年は人数に満たず開催することができませんでした。

▶ 子弟交流会での大井委員長による勉強会



全国酪農青年の委員長になって 思うことは？

中部地方の人柄で言うならば、日本の中央、関西・関東の中間であるからか、意見の集約が得意だと思います。酪農に関して言えば、近郊酪農だからか、若者が都会へ出て行ってしまったため青年部が弱いと感ずますね。世代交代も必要だと思っております。

全国との酪友との関わりが持て見識が広がったことはもちろんですが、各地域

のカラーをまとめて一つの方向に持つていくという、意見を集約する難しさは感じます。「委員長」というよりも「まとめ役」のつもりで頑張っています。

今後の抱負は？

全国酪農青年という組織がリーダーとなつて全国の酪農業を引っ張っていけるようになりたいです。黒沢前委員長が乳価交渉の際、メーカーに酪農家の声を訴えたときのように、何かあったときに先陣に立つ、実質的なリーダーになりたいと考えています。農協を超えて、地域を超えて、1つになっていく団体になっていきたいです。

また、毎年6月に行っている「父の日に牛乳（ちち）を贈ろう！」キャンペーンですが、「大切な人の健康を気遣う」という目的を定着させたいと考えています。やらされるのではなく、やるキャンペーンでありたいですね。酪農家自らが販売促進をする意義を生産者に再認識していただければと思います。

発表大会に対する想い

発表大会をすることが私達の仕事ではないと思っております。発表大会をすること、発表した人、聞いた人が、次のステップへと進める場づくりをするのが仕事だと思えます。過去に発表した人が、「あの時発表したから今がある」と思ってもらえるようになれば嬉しいです。事務局としても「発表者を探す」の

ではなく、発表した方が次のステップへと進めるようフォローも必要だと感じています。

また、後継者育成を考えたときに、農家さんが持っている技術の人（後継者）に伝えられるよう、「人前に立ち、想いを伝える」スキルもこの大会で身に付くと思います。

今年の全国発表大会についてと 来年度の想い

今年は、口蹄疫を乗り越え、震災を乗り越え、3年ぶりの開催でしたが、タイムラグを感じさせない素晴らしい大会でした。委員長冥利に尽きますね。

また、今年から、意見・体験発表で農林水産大臣賞を返上し審査基準を見直したことにより、酪農家だけでなく、酪農を目指す人、からもその熱い思いを伝えてもらえるようになりました。これからも、より一層人に感動を与えられる発表大会にしていきたいと思えます。

来年は熊本で開催予定ですが、1人でも多くの方に、酪農家でよかったと共感してもらえるような大会にしたいです。

最後に、全国の会員に メッセージをお願いします

発表を要請されたら断らないでください（笑）。やって損はないと思います。できる範囲でのご協力をお願いします！



作業中の大井委員長

育児との両立で 酪農の良さを再認識

10月の嫁

おかやま酪農協 津山支所 ながつねひさ 長恒久花さん

「嫁が語る酪農の魅力」第10弾として、おかやま酪農協
ながつねひさ 津山支所の長恒久花さんにお話を伺いました。



嫁
婿
が
語
る

酪農の魅力⑩

長恒牧場の概要を教えてください。

長恒牧場は、岡山県の県北蒜山高
原にあります。蒜山高原は標高約
500mに位置し、観光業と高原野
菜、そしてジャージー牛の飼育でも
有名です。最近では、B-1グラン
プリで蒜山焼きそばが話題になりま
した。

家族は夫の祖父母、両親、夫と
私、そして8月末に産まれた長男の



7人です。牧場の規模は、経産牛65
頭、育成40頭です。圃場は30町、主
にチモシーとオーチャードを栽培し
ています。今年の出来は、一番草に
一部刈遅れがあるものの質・量とも
にまずまずで、経営的には安心して
います。

主な仕事を教えてください。

実家が酪農家だったので、高校卒
業後、結婚まで実家で酪農をしてい
ました。実家では機械作業こそない
ものの、搾乳・餌づくりを主に担当
していました。昨年12月に結婚し妊
娠、8月末に出産、そして今は育児
をしています。ですから、今は主に
家事を担当しています。出産前
は、搾乳こそしていませんでした
が、朝・夕は毎日牛舎に行き、出来
る範囲で給餌作業をしていました。

結婚の経緯について

私達2人の出会いは、おからく職
員さんの紹介がきっかけでした。最
初は昼食を一緒にしました。おから
くの職員さん3名と全酪連の岡山駐



在職員さんと私達とで計6人でぎ
やかに会いました。初対面の場を緊
張しないようにと配慮して下さった
様です。でも、本当は初対面ではな
く、夫が私の実家に1年半くらい前
に酪農仲間の方と牧場視察に来たこ
とがあったのです。その時のことは
あまり覚えていないのですが、職員
さん方と食事をしてから2人で何度
か会って食事をしたりするようにな
り、家族をはじめ色々な人への気配
りが出来、優しい夫に惹かれるもの
を感じ、そして夫が積極的で周囲の
勧めもあり結婚を決めました。

酪農への想い

実家で酪農を手伝っていた頃には



「酪農から離れようかな」と思った時期もありました。でも、縁があった夫と知り合い酪農家へ嫁ぎ、妊娠して、以前とは違って思うように作業が出来なくなつて改めて自分が酪農を好きなんだなと思いました。

一見、この仕事は毎日休みがなく、繰り返される作業、そして天気に左右される牧草収穫等の圃場の作業。色々な面で精神的にも体力的にも大変な仕事かもしれません。しかし、一番うれしい事は、毎日家族と一緒に過ごせて会話をして過ごせるたくさん時間がある事です。

— 今後の目標・夢はありますか。 —

今は、8月末に産まれた長男の育児をしっかりとするのが1つめの目標です。家族も無事元気に産まれてきてくれた事を喜んでくれています。これからどんな風に成長していくのか、将来楽しみです。

夫は、義父の影響もあり、共進会や改良に熱心です。子供の頃から牛の世話や調教をして、共進会に参加し、岡山全共の時には中学3年でリードマンを経験したそうです。改良は、牛作りの楽しみでもあり、経

営を左右しかねない重要な分野だと話します。改良の成果を競う共進会は、勝ち負けよりも、その会場に集まる酪農仲間と切磋琢磨し、視野を広げる大切な機会だと言います。そんな夫を支えて、夫と一緒に楽しめる場所にしていきたいと思っています。そして私自身も、フラワージェンシメントの師範免許を持っており、お花が好きなので、仲間を集めてフラワージェンシメントを楽しんでいきたいと思っています。今は育児が始まり、なかなか仕事の面でも家族にも迷惑をかけていると思うの



で、ぼちぼちですが、自分のペースで出来る事から始めて、育児と両立していきたいと思っています。

全酪連販売預託事業 利用拡大支援策の 実施について

経営主の高齢化や後継者不足による酪農家戸数の減少、搾乳牛頭数の減少などにより、酪農生産基盤の弱体化が進むことが懸念されています。

このような状況の中、酪農専門農協の全国連として全酪連の果たすべき役割は、酪農生産基盤の維持・拡大のための事業をより推進していくことと認識し、「全酪連の将来ビジョン」を策定し、その中で「販売預託事業の利用拡大」を掲げています。本事業の利用拡大を図ることが、酪農生産基盤維持・拡大に必要な搾乳用後継牛の頭数確保に貢献できるものと認識しております。

全酪連では、20数年来、会員の皆様の育成牛を預かり、北海道の預託牧場先で授精・受胎させ、初妊牛として戻す事業を行っています。正式名は、乳用育成牛斡旋及び初妊牛売買事業ですが、通常は、販売預託事業と言います。現在、北海道の十勝・根釧・道北地域を中心に34牧場で、4,500頭余りの預託牛が在場しています。

この事業の特徴は、買取り買戻し方式であり、1日当たり〇〇〇〇円の預託料方式ではありません。上牧時に育成牛価格を決め、一旦、預託牧場に買って頂く形を取り（お金のやり取りはありません）、下牧時に初妊牛価格（上

預託料金 例

上牧時月齢	5ヵ月齢	10ヵ月齢
育成牛価格	100,000円	150,000円
預託料金	290,000円	210,000円
初妊牛価格	390,000円	360,000円
実際の支払料金	290,000円	210,000円

・あくまで一例であり、受胎月齢等により、預託料金は変わります。また別途 諸経費がかかります。詳しい内容につきましては、各支所畜産担当者にお問い合わせください。

牧時の育成牛価格＋預託料金）で買い戻す形になります。精算時に初妊牛価格から育成牛価格を差し引きし預託料金と諸経費（運賃、保険料）をお支払い頂きますので、入牧時にほぼ預託料金が決定します。

今回は、この販売預託事業の利用拡大支援策についてのご案内をさせていただきます。

支援策の概要については、販売預託事業により平成24年10月1日から平成25年9月30日までの1年間に上牧した預託牛を対象に、受胎後、下牧し買い戻された預託牛（初妊牛）に対し、下牧時の費用助成として25,000円／頭を支援させていただきます。



- ・場所も施設も乏しく自家育成をあきらめている。
- ・育成施設をもっと有効利用しようと思っている。
- ・搾乳に専念しようと思っている。

これらの課題の解決に向けて、是非、全酪連販売預託事業をご利用ください。詳しい内容につきましては、各支所購買畜産課（畜産課）の畜産担当者までご連絡ください。

仙台
支所発

9月1日 福島県酪農協・小野町地区酪農協 県が合併認可書を交付 県内の酪農家約7割を占める組織 新県酪農協誕生

9月1日(土)の福島県酪農協と小野町地区酪農協の合併に対する福島県の合併認可証交付式は、8月30日(木)に県庁で行われた。

合併認可書の交付式では、畠利之県農林水産部長が本組合の但野忠義組合長に認可書を手渡し、「県としても検査態勢の継続等酪農の復旧・復興に取り組む。また、合併により県内の3分の2を有する組合となる。地域農業の振興に期待し、酪農家のため尽力されることを願う。」と挨拶した。

本組合但野忠義組合長は、「酪農を取り巻く環境



は厳しい。原発事故で58戸の酪農家が休業している状況にあり、酪農家が将来の希望を持てるよう、一日も



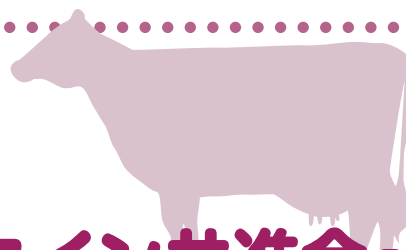
早く安心して経営再建できる環境を作り、信頼をいただける組織を目指して頑張っていきたい。」と述べた。

また、小野町地区酪農協会田義久組合長は、「今後は、県内全部の酪農家と諸問題に対応できるということになる。情報を共有することで安心経営できることが一番です。」と語った。

交付式には、田村農林水産部技監・高荒農林水産部政策監・大谷農林水産部次長・二瓶畜産課長・本木農業経済課長・長島JA福島中央会常務理事・小野県酪農協常務理事らが出席した。(W.H)

福島の酪農は負けない!!

平成24年10月20日に 第30回福島県ホルスタイン共進会開催



福島県の酪農復興を祈念して福島県ホルスタイン共進会が3年ぶりに開催されます。

しかも第30回という節目の大会に当たりますので、思い出に残る記念大会になりますよう多数参加を呼びかけると共に、大勢の方々のご来場をお待ちいたしております。また、女性や子供たちを対象にしたレディス・ジュニアリードマンコンテスト、復興応援メッセージの展示なども開催されます。

開催日時

10月20日(土)
午前10時～午後3時45分

開催場所

本宮市福島県家畜市場

主催 / 福島県乳牛改良推進協議会

後援 / 福島県・(社)福島県畜産振興協会

福島県酪農青年研究連盟

福島県ホルスタイン改良同志会

東京
支所発

群馬テレビ『JAみどりの風／笑顔と健康のために、こだわりの乳製品』放送決定

9月12日(水)東毛酪農業協同組合（大久保克美代表理事組合長）にて群馬テレビ『みどりの風』の収録が行われました。当日はまだ残暑が残る暑い中、早朝6時正門の牛のオブジェ前から撮影が始まり牛乳の製造の様子、チーズ工場の内部等を撮影しミルクランド東毛ニコモール店へ、ここではスカイツリーに隣接する「東京ソラマチ」にある「東毛酪農63℃」店で人気のソフトクリームをソラマチに行かなくても同じ味で楽しむことができます。

撮影クルーのカメラマンさんがソフトクリームが大好きだそうとても美味しそうに食べていたのが印象的でした。撮影にもかなり力を入れてくれたお陰で時間は予定よりも大幅な遅れとなり東毛酪農婦人部の「コスモス会」の料理の紹介の撮影が始まったのは2時頃からとなりました。

最近の料理番組の趣向は誰でも簡単に材料費もかからず、すぐ出来る料理が視聴者に受けるそうです。その意向に沿って今回はご婦人達の料理の腕を

ふるうには、いささか拍子抜け気味の簡単な料理でしたが見栄えも味も大成功でした。

そして最後は東毛酪農の事務所と工場に隣接する「ミルクランド東毛」へ、ここでは乳製品以外に安心・安全にこだわった加工品等も販売しています。毎日の食卓に上る食品はもちろん贈答にも喜ばれる商品等様々な食品や日常品が販売されています。

丸一日かけて丁寧に撮影し合間に組合長のインタビュー等があり全て終わったのは夜の7時過ぎとなりました。

原稿を書いている今はまだ放送前ですので、どんな風に番組が構成されているかわからないので番組を観ることが出来ない皆様にお伝えする事ができません。また記事が会報に載った頃には番組は放送された後ですので見逃してしまった方もいることと思いますが沢山の皆さまが観てくださった事を願っています。そしてこの放送で少しでも乳製品販売の促進に繋がることを願っています。（K.F）

取材を受ける大久保組合長



正面前の牛オブジェとアナウンサー



マイク準備のコスモス会会長を見守る皆さん



▲ 本番撮影中！

番組で紹介した
チーズの包み揚げ



本所発

女性パワーに圧倒！

8月29日(水)、中野サンプラザにて(社)中央畜産会の事務局による全国畜産縦断いきいきネットワーク大会が開催されました。今年のテーマは「1×2×3＝届けよう！私たちの思い～全国からのメッセージ～」で、畜産に関わる女性とその関係者約100名（うち女性は8割程度）が集まり、畜種を超えた交流を行いました。

佐藤弘子会長による挨拶の後、(有)ベネット青木代表取締役社長による「畜産における6次産業化を推進する要素」と題した講演が行われ、6次産業化を題材とした



▲ 皆さん笑顔でフォークダンス

寸劇では、参加者がカラス役となってコミカルな劇を披露し、会場からの笑いを誘いました。



◀ 講演の様子



▲ 佐藤弘子会長による挨拶



▲ (有)ベネット 青木代表取締役社長による講演

また福島農家の3名による講話では、震災から現在に至るまでの経過が説明され、涙で声が詰まりながらも懸命に話す様子に、一同真剣に聞き入っていました。

懇親会でも女性パワーはいかなく発揮！参加者全員によるフォークダンスや歌の披露があり、参加者全員が心から楽しんでいる雰囲気伝わってきました。笑いあり涙ありの賑やかな大会は盛況のうちに閉会しました。(K.S)

飛騨酪農協より

飛騨酪農農業協同組合 交流会を開催

— 牛に感謝 家族に感謝 仲間に感謝 —

8月18日(土)、飛騨酪農農業協同組合（馬瀬口弘志組合長）の夏季交流会が盛大に開催されました。当日は、組合員や家族、組合役職員や関係者を含む総勢45名が参加しました。

毎日の牛舎仕事でなかなか会う機会を作れない組合員の家族・組合役職員・関係者が集まり、酪農情報の交換や近況を報告しあい、親睦を深める大変良い機会になりました。

◀ 白熱する腕相撲決勝戦



▲ 酪農家旦那たちは冷汗…

また、当日は畜慰霊供養を行い、交流会ではバーベキューや豪華景品を狙い子供対抗ストローで牛乳早飲み大会、スイカ割り、酪農家対抗腕相撲大会で日頃の仕事での腕力を競い合いました。『牛に感謝』『家族に感謝』『仲間に感謝』で、みんなの笑顔あふれる楽しい夏の日となりました。

(飛騨酪農農業協同組合 酪農部 丸山雅義)



◀ バーベキュー風景



おいしい…もう少し ▶

福岡
支所発

「かごしま酪農おごじょの集い」開催される — 鹿児島県酪農女性部 —

去る9月10日(月)、鹿児島サンロイヤルホテルにおいて、鹿児島県酪農協同組合女性部主催による「平成24年度かごしま酪農おごじょの集い」が開催されました。

鹿児島県酪農女性部は、平成22年に設立され、研修会、牛乳・乳製品消費拡大キャンペーンの協力等様々な活動に取り組んでいます。

「おごじょ」とは、鹿児島弁で“かわいい女性”を意味します。当日は県内各地から女性部員100名がバス3台をチャーターして集いました。

集まった女性部員の皆さんはまず会場内のレストランにて準備された豪華なランチバイキングに舌鼓をうちつつ、話に花を咲かせていました。

開会にあたり女性部部長の鳩野トミ子氏、南原 需代表理事組合長が挨拶をさ

れました。

オープニングは鹿児島県酪農協本所職員による寸劇「鹿児島県酪・婚活“酪農家にお嫁さんが来た!”」の披露。同酪農協が現在取り組んでいる婚活事業をテーマにしたユーモラスな内容で、職員の熱演に会場からは大きな歓声が上がっていました。

続いて大隅支所、志布志支所酪農女性部によるコーラス、本所酪農女性部による鹿児島の伝統芸能“鈴かけ馬踊り”をアレンジした“牛踊り”が披露されました。素敵な歌声と、会場全体で繰り広げられる踊りで、多いに盛り上がりました。

講演会では、「笑いの世界を裏から見れば」と題し、鹿屋市出身の落語家 桂 竹丸師匠が講演を行いました。TV、ラジオ出演等、幅広く活躍されている竹丸師匠の絶妙な語り口に、会場からは終始笑いが絶えませんでした。

参加された皆さんは日頃の疲れをしばし忘れ、笑顔いっぱい楽しい時間を過ごし、明日への英気を養われていました。

(Y.K)



▲ 南原組合長挨拶



▲ 本所始良・伊佐地区の鈴かけ馬(牛)踊り



▲ 鹿児島県酪農職員による寸劇



▲ 志布志支所・大隅支所によるコーラス



福岡
支所発

宮崎経済連赤チームが優勝!! 第37回九州・沖縄地区酪農団体職員親善スポーツ大会

9月8日(土)～9月9日(日)の2日間、佐賀県唐津市に於いて第37回九州・沖縄地区酪農団体職員親善スポーツ大会が開催されました。

この大会は「九州・沖縄地区の酪農団体職員の資質の向上と親善ならびに団結を図る」ことを目的として毎年開催されております。

恒例の前夜祭は来賓として佐賀県農業協同組合中央会の中野吉實会長、全酪連から蛭田、中村両常務並びに大会役員等を迎え盛大に開催されました。主催者である九州・沖縄地区酪農団体協議会の尾形文清会長、中村常務の挨拶の後、中野会長による牛乳での乾杯の発声により前夜祭は幕を開けました。総勢218名の酪農関係団体職員が日々の業務を離れ、日頃できない話題に花を咲かせ交流する場面があちこちに見られました。地元佐賀県嬉野市塩田町の「不知火太鼓」の皆さんによる大迫力の太鼓の披露、次の日のミニバレーボール大会の組み合わせ抽選、カラオケ大会と進行していきました。組み合わせ抽選では30秒間での腕立て伏せの回数勝負で、各チーム精鋭の2名により組み合わせの抽選権をかけ腕っ節の強さが競われました。次に行われたカラオケ大会では各チームの代表による歌や余興が披露され大いに盛り上がりしました。

翌日に行われたミニバレーボール大会では各チーム練習の成果を発揮し激闘を繰り広げました。会場



▲ 尾形会長挨拶(スポーツ大会)

となった体育館では各チーム応援団の歓声、勝負がついたチームの一喜一憂の声が響いていました。決勝戦では激戦を制した宮崎経済連赤チームと熊本県酪連の白チームが対決。



▲ 前夜祭懇親会



▲ 腕立て伏せで組み合わせ決め



▲ 白熱の試合!



▲ 優勝の宮崎県経済連赤チーム、尾形会長を囲んで記念撮影!

ハイレベルな攻防の末 優勝は宮崎経済連赤チームとなりました。また、3位には地元佐賀県農協白チームが入りました。

表彰式で宮崎経済連赤チームには大会会長賞・全酪連会長賞が、準優勝の熊本県酪連白チームには中央酪農会議会長賞が、第3位の佐賀県農協白チームには九州酪農政治連盟協議会会長賞がそれぞれ授与されました。

最後に次回開催県である大分県酪農協の清末組合長が閉会の辞を述べ、来年の再会を約束し第37回大会の幕を閉じました。(Y.K)

大会結果

優勝	宮崎県経済農業協同組合連合会	赤チーム
準優勝	熊本県酪農協同組合連合会	白チーム
3位	佐賀県農業協同組合	白チーム



▲ 藤井さんご一家と従業員の方々

No.233

藤井牧場

北海道富良野市

牛も人もどんどん育つ牧場

地域の概況

今回紹介する有限会社藤井牧場がある北海道富良野市は、大雪山国立公園がある十勝岳連峰と、芦別岳等の夕張山地に挟まれた富良野盆地に位置します。人口は23,858人、面積は600.97km²です。市の7割は山林で、南東部には東京大学演習林があり、ラベンダー畑と布部川上流の麓郷の森はドラマ『北の国から』の舞台として有名です。北海道の中央に位置し『へその町』として知られており、その内陸性気候のため冬の寒さは非常に厳しく、冬の晴れた朝には放射冷却により、マイナ



牧場入口

ス30℃近くまで冷え込み、ダイヤモンドダストが見られる事もあります。

藤井牧場の所属するふらの農業協同組合（村山友希代表理事組合長）は、平成24年7月時点で乳用牛飼養戸数58戸、乳牛飼養総頭数7,515頭、年間生乳生産量は40,002t（平成23年度）となっています。

経営概況

有限会社藤井牧場は藤井裕一さん（父・会長65歳）、藤井雄一郎さん（本人・社長34歳）藤井秀幸さん（伯従父・専務53歳）の役員3名と、社長の奥様の睦子さん（33歳）が職場内部の責任者として従事しており、社員は10人、外国人研修生が2名の構成です。

飼養頭数は経産牛328頭、育成牛227頭を飼養し、経産牛1頭あたりの年間出荷乳量は11,593kg





砂のベットと大型ファンを備えたフリーストール牛舎

です。初産分娩月齢21カ月、分娩間隔399日をキープしています（平成24年1月現在）。出荷乳量は3,497t（平成22年度）となっております。

作付面積はデントコーンの耕地として70ha、永年牧草の耕地として50ha作付けしております。今後穀物の高騰が予期される中で、土地

を購入してデントコーンの耕地を増やしていきたいとの事です。

現在の牛舎は昭和45年に会長の裕一さんが、当時北海道内でも数軒しかなかったフリーストール式で建築したものです。平成6年には200床のフリーストールとミキシングバラー（パラレル14頭ダブル）を増築。さらに、牛床に砂を使いカウコンフォートに重点を置いた搾乳牛舎180床（増築と新築2棟の合計）、既存牛舎の更新として育成牛舎235床（既存牛舎の更新）も今年11月の完成をめざして建築中です。

牧場の沿革

藤井牧場は初代喜一郎さんが明治27年に北海道に渡り、移住後10年目に10haの土地を取得、創業し水田酪農をしながら酪農専業への礎を築きました。平成元年には4代目の裕一さんが『有限会社 藤井牧場』として法人格を取得しました。平成8年には3回搾乳の導入、年間出荷生乳量2,000tを達成します。5代目で現在の社長の雄一郎さんは、平成13年に帯広畜産大学を卒業して就農され、平成21年に社長に就任。その年に年間出荷乳量3,322t、1頭あたり乳量11,000kgを達成しま



奥様と
貴大君・詩子ちゃん
(生後5ヵ月)

す。平成22年に出荷乳量3,497tと順調に推移しています。

経営の特徴

藤井牧場の経営理念として、『牛も人もどんどん育つ牧場』をあげています。その土台となる理念が、次の3つです。

- ① 藤井牧場は開拓期より受け継いだ牛、土、心を次の世代に引き継ぎ、日本の食を護り育てていきます。
- ② 全社員が酪農を通じて人間的な成長を図り、物心両面において豊かな人生を実現するため努力します。
- ③ 牛を愛し、人を愛し、富良野を

◀ お子様たちのために建てた遊具



愛する人が育ち、集う牧場を目指します。

この理念のもと、『牛』に関しては平成24年4月よりカーフトップEXを使用し、強化哺育牛が農場HACCAPの特徴（メリット）である増体と育成率の向上に寄与し、牛が健康になる事により飼養管理が改善される事を期待しています。

『人』に関しては非農家出身の農業に興味がある大学新卒者を採用し、現在では北海道はもとより、本州から人材が集まっています。人が主体的に働ける牧場を目指しています。

農業HACCPの取得

安全性の高い牛乳の生産を目指し、農場HACCP認証取得に挑戦して、書類審査と現地審査の上平成24年4月27日、我が国認証第1号のHACCP認証農場となりました。雄一郎さんは、将来的にコスト競争の中で酪農先進国とは違う路線で勝負せねばならず、その為には生乳の付加価値を高めるべきと考え、農場



藤井社長と藤井会長

HACCPの認証を目指しました。

認証を受けるには農場衛生管理基準書の提出が必要で、平成22年9月から作成に取り組みました。HACCP制度に詳しい上川家畜保健衛生所の担当者の協力のもと、平成24年1月に農場衛生管理基準書を制定しました。雄一郎さんを経営者とし、内部検証チームとHACCPチームに分かれ搾乳部門、生産部門、環境部門の役割分担を明確にする事により、健康な家畜の飼育、安心安全な農畜産物の供給を目指しています。

月一回の定例会議も15年以上も続き180回を重ねています。スタッフとのミーティングを行い、乳量、乳成分、分娩状況、疾病状況等を報告しあい、共有しあっています。毎日正午には当日の報告、伝達事項、牛の異常等の問題点があれば報告し、注意箇所を確認しています。雄一郎さんは「（ミーティングは）スタッフの業務に対する自覚と農場の衛生管理の改善に寄与しており、安全、安心のおいしい牛乳の生産には欠かせない。」とおっしゃいました。

地域での活動

雄一郎さんは地域のふらの農協酪農部会と酪農青年部の役員を兼務。北海道中小企業家同友会富良野地区会で副幹事長として、経営に関する勉強会の開催や地域に根ざした乳製

品の開発、今後の出店について話合う等、異業種間での交流を深めています。

今後の目標

平成23年6月に、6次産業化に向けてチーズ工房を設立しました。妹のあゆ美さん（28）がモッツアレラチーズを作っています。当初はなかなか上手く出来ませんでした。何度か試作を重ねていくうちに、発売から1年が過ぎた現在では地元のお客様に浸透してきて、中には一度

かされるので、6次産業化を進める為の手段としても期待を寄せています。「チーズ販売を通じて酪農の価値を一般の消費者に知ってもらいたい。そのためには酪農に携わる牛、人、牧場の存在が重要であり、今後も理念にそった経営をしていきたい」とおっしゃいました。

最後に、お忙しい中快く取材にに応じてくださった雄一郎さん及び従業員様の益々のご発展をお祈り申し上げます。心からの感謝を申し上げます。

雄一郎さんは「牛も人もどんどん育つ牧場」の経営理念のもと、チーズで6次産業化に邁進していきたい。」と今後の抱負を語ります。農業HACCPは、衛生環境はもちろん牛群の管理能力も試され、人材育成に活



強化哺育用牛舎

酪政連活動報告

(平成 24 年 7 ~ 9 月)

日本酪農政治連盟

7/11	三役会議、中央常任委員会 ◆ 平成 25 年度酪農政策・予算確保に係る要請内容の協議	8/ 3	民主党酪農畜産 WT (監事ほか) ◆ 原発事故に係る賠償実績等の現況、当該対策に係る要請
7/13	総合農政・貿易調査会、TPP 参加の即時撤回を求める会合同会議 (幹事長ほか) ◆ TPP 情勢と政府への抗議申し入れ案について	8/ 7	三役会議、常任・中央合同委員会 (終了後、政府国会への要請活動) ◆ 平成 25 年度酪農政策・予算確保に係る要請内容の協議、決定
7/19	中央団体事務局会議 (幹事長ほか) ◆ 平成 25 年度酪農政策・予算確保に係る要請内容の協議	8/20	郡司彰農水大臣と面談 (委員長、常任委員、幹事長ほか) ◆ 平成 25 年度酪農政策・予算確保に係る要請
7/24	食品安全委員会プリオン調査会 ◆ 米国が要求している牛肉に係る月齢緩和に対応する調査会 ◆ BSE に係る科学的見地、検証の説明と意見交換 ◆ 次回に結論案を提示する予定	8/20	平野達男復興大臣と面談 (委員長、幹事長ほか) ◆ 放射能汚染対策に係る現場状況、今後の対応等に係る意見交換、要請
7/25	自民党農林部会、総合農政調査会等合同会議、畜酪小委員会 ◆ 原発事故に伴う風評被害対策に係る政府申し入れ案の協議、決定 ◆ 穀物相場の急騰に係る役所説明と意見交換	8/28	自民党農林部会、畜酪小委員会合同会議 (委員長、幹事長ほか) ◆ 平成 25 年度酪農政策・予算確保に係る要請 ◆ 穀物相場の状況、見通しと対応
7/26	民主党酪畜 WT (副委員長、幹事長ほか) ◆ 平成 25 年度酪農政策・予算確保に係る要請	8/29	民主党農林水産部門会議 (委員長、幹事長ほか) ◆ 平成 25 年度税制改正に係る要請
7/31	日本の畜産ネットワーク幹事会 (幹事長) ◆ 今後の TPP 参加阻止活動について協議	8/30	超党派による TPP 交渉参加表明阻止国民集会 (幹事長ほか) ◆ 各党代表による反対発言、政府に対する決議文の決定等
8/ 3	自民党農政推進協議会・農林部会合同会議 (委員長、幹事長) ◆ 平成 25 年度酪農政策・予算確保に係る要請	9/ 3	全国乳業協同組合連合会との協議 (幹事長ほか) ◆ 学乳制度に係る予算確保について
		9/14	自民党農林部会、総合農政調査会、畜酪合同会議 ◆ 平成 25 年度予算概要に係る報告と意見交換

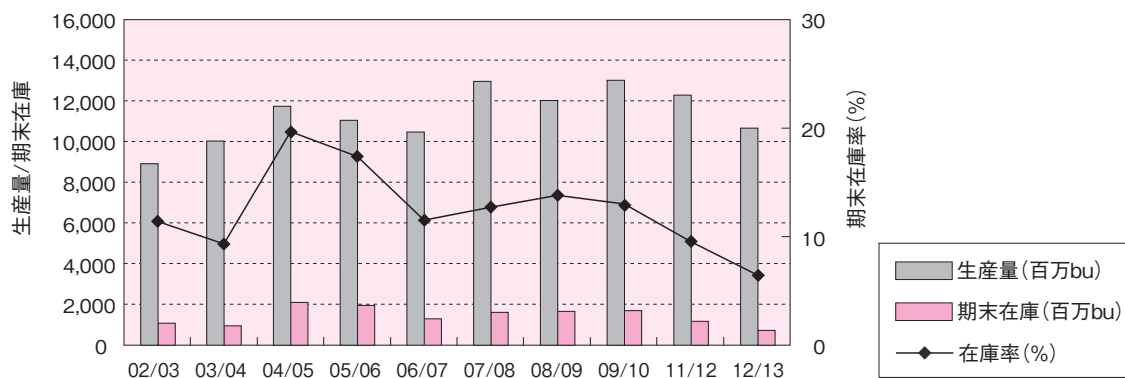


原料情勢

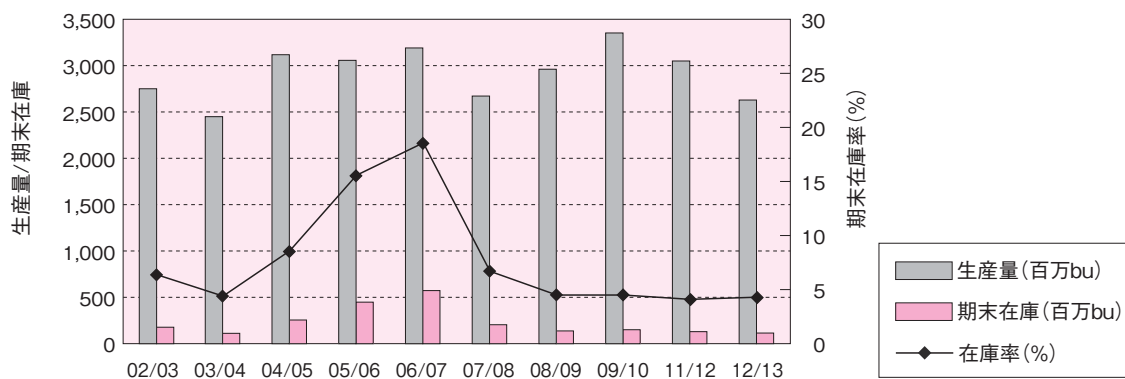
平成24年9月

9月12日発表 米国農務省トウモロコシ 需給予想	【11/12年産】 作付面積91.9百万(前月91.9百万) エーカー、単収147.2 (147.2) bu/エーカー、生産量123億5,800万 (123億5,800万) bu、総需要量123億3,000万 (124億900万) bu、期末在庫11億8,100万 (10億2,100万) bu、在庫率9.6 (8.2) %。 【12/13年産】 作付面積96.4百万(前月96.4百万) エーカー、単収122.8 (123.4) bu/エーカー、生産量107億2,700万 (107億7,900万) bu、総需要量112億5,000万 (112億2,500万) bu、期末在庫7億3,300万 (6億5,000万) bu、在庫率6.5 (5.8) %。
トウモロコシ相場動向	8月後半から800¢を切り現在は700¢半ばから後半の間で値動きをしている。値上げ材料が出尽くしたとの見方や、収穫期を迎えて良好な天候予想が出ていることにより弱含みの展開が予想されるが、収穫量全体の実態は掴めておらず、供給量不足等からの高値への警戒は必要と思われる。
国内産大豆粕	米国産大豆需給予想の12/13年の期末在庫見通しは1億1,500万 (1億1,500万) bu、在庫率4.31(4.19) %。早急に需給が改善するのは困難な状況であることから史上最高値水準での高止まりとなっている。国産大豆粕の発生量は依然低調であり、国産大豆粕の減少分を輸入大豆粕で補っている状況に変わりはない。現時点では輸入大豆粕は順調に入船しており、受け渡しには問題ない見込。
糟糠類	小麦の挽砕量は小麦の出荷が鈍く予想を下回って推移している。フスマの使用割合は高いままであるため、需給は非常にタイト。グルテンフィードも使用割合が高まっているため、在庫が増えず推移。今後は発生量が減少する見込みであるため、需給は締まることが予想され、デリバリーが不安になる可能性が高いと思われる。
海上運賃	海上運賃は、中国の投資による鉄鉱石需要の増加が見込まれており、今後は強含みの展開が予想される。原油相場は中東情勢の悪化、米国の追加金融緩和と政策の発表による需要増加への期待から上げ基調で推移している。

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移



輸入粗飼料の情勢

平成24年9月

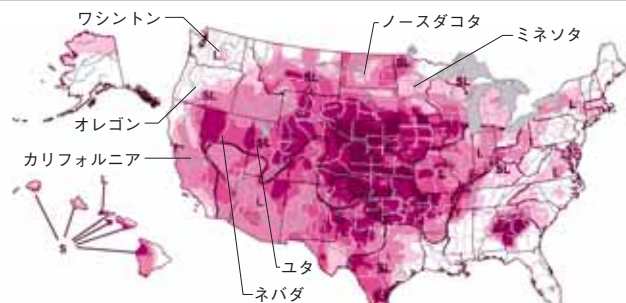
米国内の早魃の状況	前月号でもお伝えした通り、輸出向け乾牧草の主産地である西海岸（ワシントン州、オレゴン州、カリフォルニア州）では雨当たり、トウモロコシの主産地である中西部では早魃となっており、ほとんどの草種で収穫時期に雨当たり被害が発生する未曾有の事態。
北米コンテナ船フレート	WTSA加盟の船会社により10-12月分のBAF（燃料費調整係数）の\$84値下げが発表されたが、GRI（基礎レート）は10月1日付けで\$200値上げ実施と発表された。 PNW（アメリカ北西部）では輸入量が輸出量に追いついていないため、引き続き空コンテナが不足している。
ビートパルプ	【米国産】主産地であるミネソタ州とノースダコタ州はあまり早魃傾向ではないため、生育は概ね順調に推移し8月中旬から12年産の収穫が始まった。しかしながら、穀物相場が高騰しているため、米国内酪農家からの引き合いが増えることが懸念されている。
アルファルファヘイ	【ワシントン産】コロニアベースンでは、1番刈の60%程度、2番刈が50-60%程度の雨当たり被害を受けた。3タイの発生量が減少し、生産効率の高いBIGパールでの生産が大半となっている。 産地では3番刈の収穫が終盤を迎えており、降雨被害はほとんどなかったものの、全体的に茎が細めの仕上がりとなっている。早い圃場では4番刈の収穫が始まっているが、約半数の生産農家は3番刈までで収穫を終えると予想されている。
	【オレゴン産】クリスマスバレーでは、7月下旬から2番刈の収穫が始まり、8月下旬までにはほぼ終了した。クラマスフォールズでは、7月中旬から2番刈の収穫が始まり、8月下旬には収穫が終了した。早い圃場では3番刈の収穫が始まっている模様。両産地ともワシントン産の状況を受けて12年産も引き合いが強まっている。
	【ネバダ産】7月上旬から2番刈の収穫が始まったが、30-40%程度の雨当たり被害が発生。1番刈も40-50%程度の雨当たりとなり、作柄は思わしくない。他州の酪農家からの引き合いが強くなっており、産地価格は引き続き強含みで推移することが予想されている。
	【ユタ産】5月下旬より始まった1番刈は雨当たり被害はほとんどなかったが、7月上旬から始まった2番刈の収穫は多くの圃場で雨当たり被害を受けた模様。ネバダ産同様、他州の酪農家からの引き合いが強くなっており、産地価格は引き続き強含みで推移することが予想されている。
	【カリフォルニア産】インベリアルバレーでは、6番刈の収穫がほぼ終了し、早い圃場では7番刈の収穫が始まっている。7月の激しい降雨により影響があったものの、一般的に成分・品質が落ちる「サマーヘイ」が中心となっているため、日本向けには大きな影響がないと考えられている。今後はUAE・中国向けの動向次第ではアルファルファ全体で間接的に影響を受ける可能性もあり、注意が必要。
チモシー	【米国産】1番刈は、エレンズバーグでは60-70%程度が、コロニアベースンでは40-50%程度が雨当たり被害を受けた。酪農向けのプレミアム品、中間グレード品も馬向けに向けられているため、酪農向けは中間グレード品でさえも確保が困難な状況。穀物相場の高騰から転作が進められる圃場も多く、2番刈の作付面積は前年対比で50%以上も減少すると一部では予想されている。
	【カナダ産】レスブリッジでは1番刈の収穫が7月中旬から、ドライランドでは7月下旬から始まっているが、ここでも雨当たり被害が発生したため、ハイグレード品の発生量は限定的。両産地とも、米国産1番刈の状況を受けて、12年産は強い引き合いでスタートしている。
スーダン	【インベリアルバレー産】産地では早播きの2番刈や小麦収穫後に播種する遅播きのスーダングラス（アフターウィート）の収穫が待たれていたが、7月末の激しい降雨、8月中旬のまとまった降雨により、中間グレード品やローグレード品の発生量についても、予想よりも減少する見込み。
クレイングラス	1、2番刈は良品の発生が多かったが、今後発生する3番刈以降は、雨当たりから刈遅れ気味となったスタックも多く、茎が硬め・太め・茶葉が多めな品質傾向となることが予想されている。
オーツヘイ	【西豪州産】7月は記録的な降雨不足により早魃傾向となっていたが、8月には降雨が何度かあり、生育進捗も少し回復しているが、収量は例年よりも少なくなる見込み。10年産の早魃、11年産の雨当たり被害と生産農家は厳しい経営を強いられているため、穀類の転作が多いと予想され、12年産の作付面積は15%以上も減少することが予想されている。
	【南豪州産】播種は終了。西豪州とは違い、7月にも例年並みの降雨があったため、生育は順調と伝えられている。
	【東豪州産】ヴィクトリア州でも播種は終了。南豪州と同様に7月に例年並みの降雨があったため、生育は順調と伝えられている。

アメリカの早魃状況 2012.09.11

- D0 異常な乾燥 S 短期間(6か月未満)
- D1 中程度の早魃 L 長期間(6か月以上)
- D2 厳しい早魃
- D3 極めてひどい早魃
- D4 異常なほどひどい早魃

The Drought Monitor focuses on broad-scale conditions.
Local conditions may vary. See accompanying text summary
for forecast statements.

<http://droughtmonitor.unl.edu/>



Released Thursday, September 13, 2012
Author: David Simeral, Western Regional Climate Center

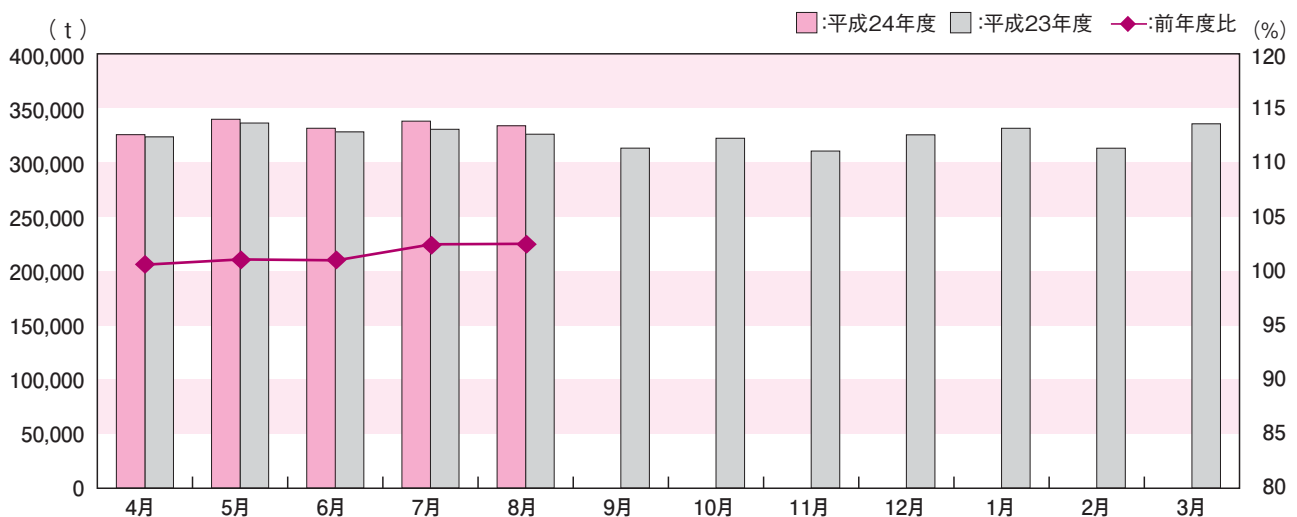


平成24年度（8月）地域別生乳生産量

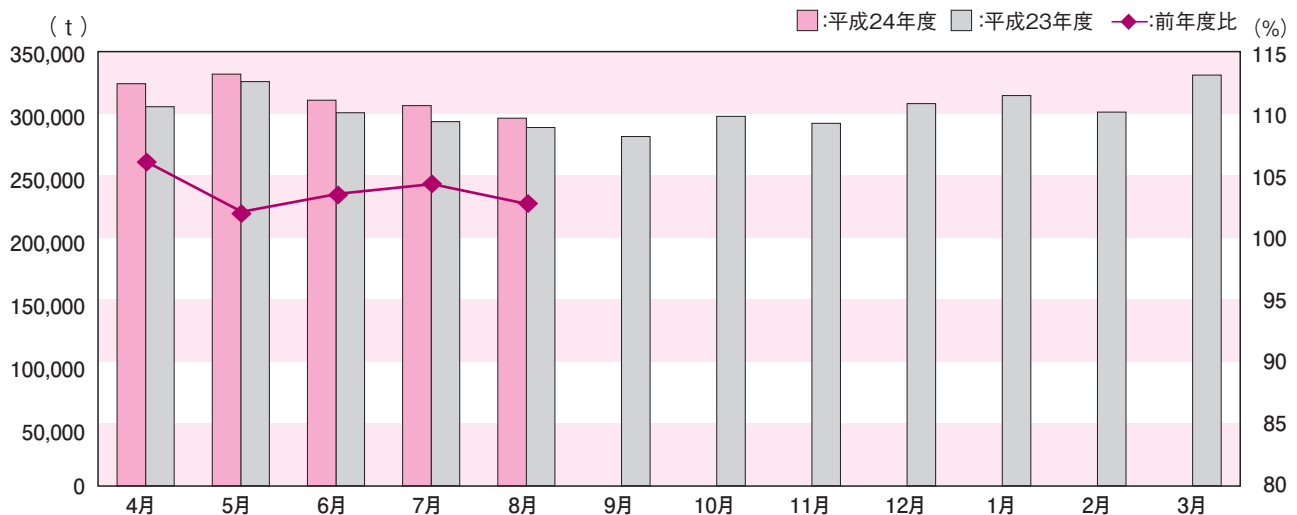
単位：t

	全 国	北海道	東 北	北 陸	関 東	東 山	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
23 年度 8 月	614,552	325,838	48,003	8,025	85,889	11,088	31,040	16,162	24,107	10,659	51,538	2,203
9 月	594,466	313,005	47,323	7,707	82,863	10,857	30,317	15,519	23,565	10,534	50,642	2,134
10 月	619,843	322,112	50,137	8,147	88,027	11,085	32,618	16,214	24,827	11,039	53,418	2,219
11 月	602,420	310,328	49,086	7,959	86,312	10,743	32,225	16,013	24,147	10,937	52,508	2,162
12 月	633,207	325,234	51,663	8,513	90,717	11,280	33,692	17,036	25,222	11,636	55,987	2,227
1 月	645,750	331,298	52,019	8,829	92,456	11,185	34,749	17,486	25,865	12,036	57,569	2,258
2 月	614,082	312,946	49,521	8,382	88,672	10,472	33,129	16,653	24,789	11,472	55,775	2,271
3 月	666,347	335,386	54,152	9,249	97,760	11,542	36,017	18,526	27,139	12,421	61,632	2,523
24 年度 4 月	649,417	325,403	53,039	9,170	96,089	11,050	35,816	18,021	26,669	12,113	59,575	2,472
5 月	671,328	339,593	54,297	9,227	98,067	11,665	36,780	18,427	27,627	12,313	60,803	2,529
6 月	642,043	331,311	51,516	8,701	91,724	11,050	34,328	17,034	25,850	11,373	56,767	2,389
7 月	644,196	337,854	51,884	8,548	90,654	11,038	33,415	16,758	25,390	10,975	55,312	2,368
8 月	629,828	333,599	50,211	8,130	87,907	10,950	31,827	16,191	24,820	10,636	53,274	2,283
前年同月比	102.5%	102.4%	104.6%	101.3%	102.3%	98.8%	102.5%	100.2%	103.0%	99.8%	103.4%	103.6%
24 年度 累計	3,236,812	1,667,760	260,947	43,776	464,441	55,753	172,166	86,431	130,356	57,410	285,731	12,041
前年同月比	102.5%	101.5%	110.6%	100.3%	103.2%	98.7%	102.5%	100.7%	102.1%	98.7%	103.4%	102.1%

北海道の月別生乳生産量



都府県の月別生乳生産量

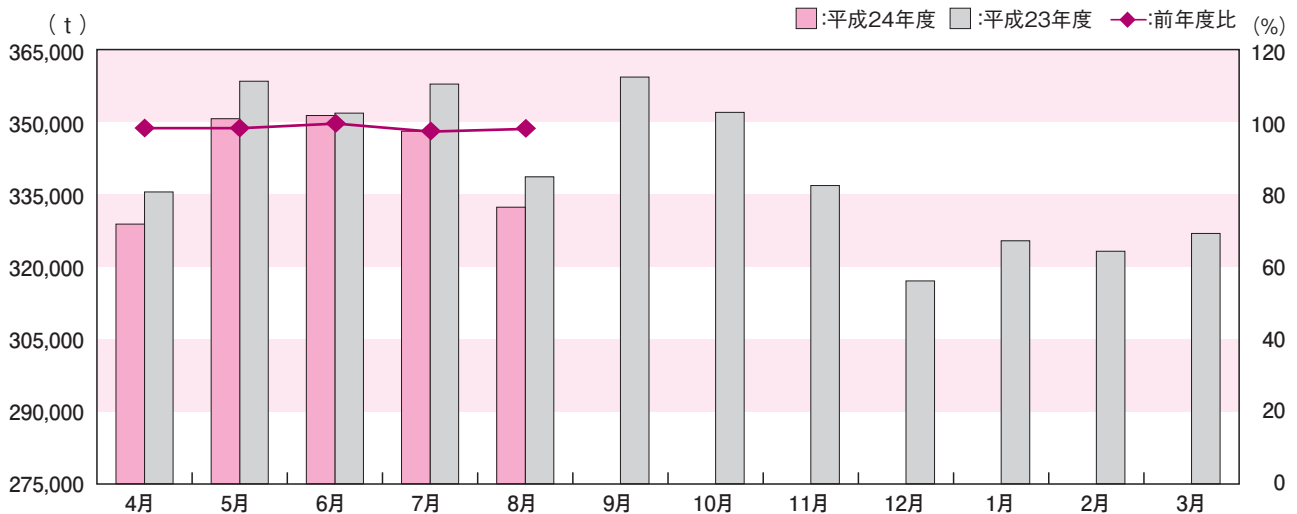


平成24年度（8月）用途別処理量

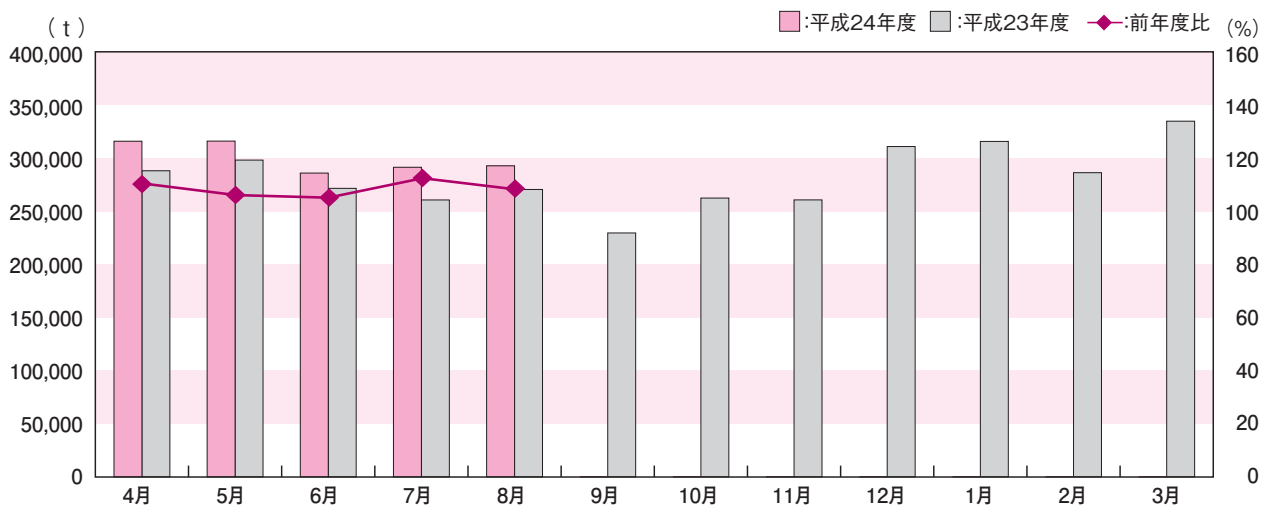
単位：t

	用 途 別 処 理 量							
	生乳生産量	牛乳等向け	業務用向け	乳製品向け	チーズ向け	クリーム等向け	その他	欠 減
23 年度 8 月	614,552	338,603	24,216	270,357	40,712	106,994	5,592	1,102
9 月	594,466	359,270	27,189	229,452	32,181	104,967	5,744	1,192
10 月	619,843	351,958	29,171	262,271	38,368	110,428	5,614	1,076
11 月	602,420	336,798	29,374	260,547	38,338	108,557	5,075	886
12 月	633,207	317,039	27,191	310,749	39,974	109,880	5,419	957
1 月	645,750	325,351	24,812	315,558	46,565	96,795	4,841	1,002
2 月	614,082	323,184	25,383	286,133	45,293	99,089	4,765	961
3 月	666,347	326,874	28,301	334,591	48,467	109,346	4,882	1,038
24 年度 4 月	649,417	328,810	27,221	315,743	41,550	105,614	4,864	1,014
5 月	671,328	350,642	23,794	315,862	44,713	107,516	4,824	1,019
6 月	642,043	351,307	22,672	285,771	40,825	106,295	4,965	1,144
7 月	644,196	348,063	23,731	291,244	41,566	111,117	4,889	1,038
8 月	629,828	332,311	23,748	292,625	42,664	106,788	4,892	1,069
前年同月比	102.5%	98.1%	98.1%	108.2%	104.8%	99.8%	87.5%	97.0%
24 年度 累計	3,236,812	1,711,133	121,166	1,501,245	211,318	537,330	24,434	5,284
前年同月比	102.5%	98.2%	101.9%	108.1%	102.1%	105.7%	89.5%	97.3%

牛乳等向け処理量の推移



乳製品向け処理量の推移



※農林水産省統計部が公表した「牛乳乳製品統計」をもとに本会酪農部で集計した。

原稿募集

「酪農トピックス」では皆様からの記事を募集しております

共進会、B&W、酪農祭り、親睦スポーツ大会といった催事情報から組合住所の変更や移転等案内情報、そして直営店情報や組合の自慢情報まで、酪農トピックスでは会員の皆様からの原稿を募集しております。本コーナーは会員の皆様の情報交換の場です。ぜひご活用ください。

送付先 皆様のお近くにありますが本会支所までご送付・ご連絡ください。

■札幌支所

〒060-0003

札幌市中央区北3条西7丁目1 酪農センター 5階
tel. 011-241-0765

■仙台支所

〒980-0021

仙台市青葉区中央1-7-20 東邦ビル3階
tel. 022-221-5381

■東京支所

〒108-0014

東京都港区芝四丁目17番5号 相鉄田町ビル5階
tel. 03-5931-8011

■名古屋支所

〒465-0095

名古屋市名東区高社1-89 第2東昭ビル2階
tel. 052-771-7104

■大阪支所

〒532-0011

大阪市淀川区西中島5-14-10 サムティ新大阪フロントビル6階
tel. 06-6305-4196

■福岡支所

〒812-0016

福岡市博多区博多駅南1-2-15 事務機ビル7階
tel. 092-431-8111

人事異動

新

旧

氏名

■平成24年10月1日付異動発令

総務部 部長 兼 法務・コンプライアンス課長

管理部 部長

購買部 部長 兼 購買企画課長 兼 畜産課長

仙台支所 支所長 兼 指導組織課長

東京支所 支所長 兼 総務課長

名古屋支所 支所長 兼 指導組織課長 兼 購買畜産課長

狭山工場 工場長 兼 総務課長

狭山工場 総務課長代理

総務部付外向 (株)ゼントレーディング 部長待遇

総務部付外向 (株)ゼフコ 部長待遇

購買部 部長 兼 購買企画課長 兼 畜産課長

総務部 部長 兼 法務・コンプライアンス課長

東京支所 支所長 兼 総務課長

仙台支所 次長

名古屋支所 支所長 兼 指導組織課長

名古屋支所 次長 兼 購買畜産課長

狭山工場 工場長

管理部 経理課 副審査役

仙台支所 支所長 兼 指導組織課長

管理部 部長

小谷 英穂

松窪 俊郎

梅岡 正人

直 則光

川辺 昭司

関 和次男

米倉 光

松下 裕

瀬川 浩吉

小倉 志郎

札幌支所 TEL 011-241-0765
釧路事務所 TEL 0154-52-1232
帯広事務所 TEL 0155-37-6051
道北事務所 TEL 01654-2-2368

事 務 所	畜 種	相場(万円)	価格状況	管 内 状 況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	27～32	➡	札幌管内の9月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で100.5%、累計101.0%。苫小牧管内月計で96.7%、累計99.6%の実績となり苫小牧地区は前年を下回る生産状況です。初妊牛の価格動向ですが、12～1月分娩が中心になります。猛暑の影響による事故等が今後増加すると思われ、それに伴い府県需要は高まるかと判断して、やや強含みの相場で推移しそうです。育成牛につきましては、8～10ヵ月齢は強含みで推移しますが、全体は横這いの価格になるものと思われます。また、経産牛につきましても、良質資源は少ないと思われますが、価格面では育成牛と同様に横這いで推移しそうです。
	初 妊 牛	48～52	➡	
	経 産 牛	40～45	➡	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	30～35	➡	根釧管内の9月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で101.2%、累計で101.1%。中標津管内月計で102.8%、累計で102.3%の実績となっております。さて、10月の初妊牛動向ですが、荷動きが早く通常より1ヵ月位早いペースで売りに出されるようになっております。要因としては、高値で動くと思われる年明けより年内に導入しようとする動き、またメガファーム等の導入による買い手側の影響によるものです。相場については徐々に上がりつつあり、資源についても、上述のとおり早めに動くこうした気配もありますので、購買予定がございましたら、早めの手配も必要かと思います。
	初 妊 牛	48～55	➡	
	経 産 牛	40～48	➡	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	29～34	➡	帯広管内の9月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で101.3%、累計101.4%の実績となっております。10月の初妊牛の動向ですが、来春腹の資源不足を考慮して秋導入の動きが強くなっております。価格につきましては、涼しい季節となり府県導入の引き合いが強くなることが予想されますので、やや強含みで推移すると思われます。12月～1月中心腹となりますが、荷動きの流れが早いいため導入予定がありましたら、早めの注文を宜しくお願いいたします。
	初 妊 牛	49～54	➡	
	経 産 牛	45～50	➡	
道北管内	育成牛(10-12月令)	25～30	➡	道北管内の9月中旬までの生乳生産量は稚内管内月計で102.9%、累計101.1%。北見管内月計で103.0%、累計で101.6%の実績となっております。初妊牛の動向は9月に入って府県の需要が急増し、10月下旬～11月腹が動きました。現在、初妊牛は不足状況ではなくF1、ホル腹とも資源は余裕があります。10月購買は、12月～1月腹中心となり、価格動向については、これから府県導入の引き合いが強くなる事が予想され、強含みで推移すると思われます。
	初 妊 牛	48～53	➡	
	経 産 牛	40～47	➡	
道内総括	育成牛(10-12月令)	30～35	➡	道内の9月中旬までの生乳生産量前年比は月計で101.9%、累計101.5%となり、今後8月下旬以降の猛暑により生乳生産量がどのようになるか注視が必要です。10月の初妊牛動向ですが、府県の荷動きは例年と比べ早いと思われます。一方、下旬には放牧地からの下牧も始まりますので、資源的には、まだ余裕があり価格面は横這いで推移するものと思われます。分娩は12～1月腹となりますが、荷動きが早いため、近産みは資源が乏しくなる可能性もあります。購買の予定がありましたら早めの連絡をお願いします。気候の変化の激しい季節ですので、体調には十分気をつけて、購買を宜しくお願いします。
	初 妊 牛	48～53	➡	
	経 産 牛	45～50	➡	

23 ZENRAKUREN MEMBER'S INFORMATION | 2012・10



今月の



入賞作品紹介

草を食べている牛

馬場川小学校(北海道)4年 上泉美亜



今月の入選作品は、馬場川小学校（北海道）4年の上泉美亜さんの「草を食べている牛」です。

広大な大地の中で、リラックスして草を食んでいる牛さんが印象的な作品です。色使いが繊細かつ複雑で、見るものに強い存在感を感じさせます。ゆったりとした牛さんの動きが感じ取れる作品です。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第39回らくのうこどもギャラリー」で全国461点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議